

日伊交流史における寺崎武男 (1883-1967)

石井元章 (大阪芸術大学教授)



▲講演動画 QR

1. はじめに

長沼守敬 (1857-1942) 彫刻家

長沼守敬・寺崎武男「昔の思ひ出」『松岡壽先生』東京 1941, pp.126-133



寺崎武男の館山移住は、イタリア留学の先輩であり美校の師でもある長沼守敬の存在がきっかけとなった。

1881 (明治 14) 年イタリアに私費留学した長沼は、ヴェネツィア王立美術学校に学ぶと同時に、同地の商業高等学校で日本語を講ずる。帰国後の代表作は『老父』『ベルツ、スクリーバ胸像』など。国内外で注目を浴びるも、1899 (明治 33) 年に短期間教鞭を執った東京美術学校を退職。1914 (大正 3) に館山の上須賀に隠居する。親友で建築家の辰野金吾も「晩年をともに館山で暮らそう」と約束し、徒歩 3 分の距離に別荘を持った。

関東大震災に遭遇し、城山に避難した。懇意にしていた近所の堀口家の老婦人と 2 歳の孫娘が亡くなったのを悼み、北下台 (ぼっけだい) の観音堂墓所に、2 人の供養レリーフを制作した。

2. 留学中の寺崎

東京美術学校

美術史家 岩村透 (1870-1917)

『西洋美術史要』絵画編、彫刻編、建築編

美術雑誌『美術新報』など

1907 年 4 月 13 日 農商務省実業講習生としてヴェネツィア王立美術学院 (Regio Istituto di Belle Arti in Venezia) に留学

ヴェネツィア美術学校古文書室史料より

Pietro Silvio Rivetta、寺崎『日本のことば』*Lingua Giapponese: Grammatica teorico-pratica della lingua parlata con esercizi tesi graduali, conversazioni e piccolo dizionario*, 1911

《ラテラノ教会行幸図》ヴァティカン宮殿、1585 年ヴィチェンツァのテアトロ・オリンピコを訪れた天正遣欧使節団[JAPONENSIVM LEGATIS]を描いた前室壁画

長沼守敬『航海日誌』明治四十三年十二月八日、十日

3. 寺崎の帰国後の文筆活動

「伊太利の美術界」『中央美術』3-2 (1917), pp.92-95

「水のヴェニスと芸術」『美術』1-10(1917), pp.6-8

「ヴェニス派の美術」『絵画清談』6-6(1918), pp.10-24

「水都ヴェニスの歓楽」『新公論』33-8(1918), pp.158-162

「ゼニスの海」『みづゑ』173(1919), pp.9-12

「ベニスより」『みづゑ』187(1920), p.16

「ヴェニス」『美の國』4-2(1928), pp.20-26



4. 1920年代の活動

ローマ、外務省外交史料館、Pos. XIV B, Turismo e propaganda turistica/ Dal 1920 al 1929

東京でイタリア近代美術展を企画

エットレ・ヴィオラ (Ettore Viola, 1894-1986) *Combattenti e Mussolini dopo il congress di Assisi*, Firenze 1975

5. ローマ開催 日本美術展覧会 1930年

1930年 寺崎武男《幻想: Kuwannon》ベネツィア・ビエンナーレ国際展 日本人初入賞

1938年 ローマ市が東京市に《ローマの牝狼 (Lupa romana)》の模刻を寄贈



◁ 横山大観が描いたポスター △ 記念図録 ▽ 右端:寺崎



6. イタリア王国からの叙勲

「多年の日伊親善の功」に対して

Commendatore della Corona d'Italia (イタリア冠のコンメンダトーレ)

Cavaliere dei Santi Maurizio e Lazzaro d'Italia (イタリアの聖マウリツィオとラッザロ、騎士)